

# 17 学校保健

## 17 自立に向かう子どもたちを育む学校保健

—自己決定の場を大切にした指導—

相澤光恵

### 1. はじめに

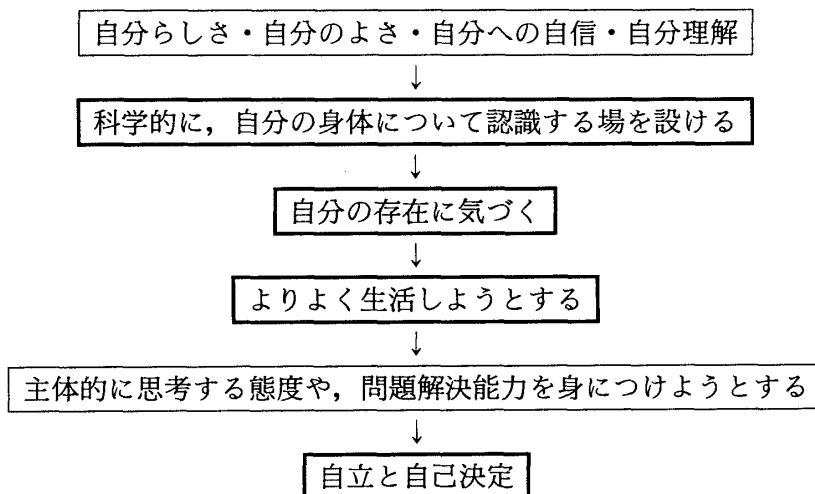
時代の変化に伴い、子どもたちの健康に関する現代的課題の解決に向けて、25年ぶりに「保健体育審議会の答申」が出された。また、「中央教育審議会答申」においても、「生きる力」「ゆとり」を育むことが重視され、その重要な要素として「たくましく生きるための健康や体力」があげられている。このように、新しい時代の教育の在り方を求めて大きく改革され、21世紀を生きる子どもたちに、心身の健康の保持増進は不可欠の課題となってきている。

これまでの学校教育を初め、学校保健、健康教育等を振り返ってみると、その時々々の社会の状況や生活様式によって、教育課題や子どもたちの心や体の健康に即した様々な捉え方がなされている。最近では、特に深刻化されている子どもたちのいじめ・不登校・薬物の乱用・性の逸脱行動や殺傷事件などの増加傾向や低年齢化は、学校教育において“心の健康”が重大な課題と示されている。なぜなら、これらの問題の多くは、自分の存在に価値や自信が持てないなど、心の健康問題と深く関わっていることが指摘されているからである。このように、教育界における制度的な改訂や改正に伴い、健康教育の捉え方も大きな転換期を迎えていることは、教育方針「生きる力」というスローガンからも、子どもたちの健康がいかに配慮されてきたかを伺うことができる。

このような必要性を踏まえながら、これからの健康教育について、本校の子どもたちの課題や校内体制に沿った指導内容や方法を考えて行きたい。また、子どもたちを取り巻く社会環境の様々な変化に、適切な対応をすることができる。その一方で、時代を超えて変わらない価値あるものは何かを追求する事ができるよう、健康教育を通して支援していきたいと考えている。

### 2. 学校保健における自立と自己決定

本校の研究テーマ“自立に向かう子どもたち”と学校保健との関わりを、次のように考えている。



### 3. めざす子ども像

上記のようなことを踏まえて、自立をめざす子ども像を次のように考えた。

- ◎ 自分の体に興味・関心を持ち、自己管理や健康の価値を認識することができる子ども。
- ◎ 健康についての知識を身につけ、理解することができる子ども。
- ◎ 自分自身の生活習慣や心身の状態に気づくと共に、よりよく解決するために、考え判断きる子ども。
- ◎ 健康について課題を見つけ、自ら解決していこうとする態度や、意志決定をし行動できる子ども。
- ◎ 自分自身の存在を認め、他者との共生・共感ができる子ども。

### 4. 実践の概要 「ふしぎがいっぱい～わたしたちのからだ～」(第2学年)

#### (1) 事前調査 2年1組39名

本題材に入る前に、現在の自分自身をどのように受け止めているかを知るために、以下のような事前調査を実施した。

◎ 自分が好きですか？きらいですか？

★ すき	27名
★ あまり好きではない	3名
★ きらい	1名
★ よくわからない	8名
合計	39名

集計結果から

《自分が好きベスト5》		《自分がきらいワースト5》	
1位 性格	26名	1位 性格	20名
2位 元気・よく遊	16名	2位 容姿	3名
3位 運動神経がよい	10名	4位 運動神経がよくない	2名
4位 勉強をしたりよく食べる	9名	4位 好き嫌いがある	2名
5位 生きている	4名	5位 ・虫が嫌い・寝過ごす	
その他・字がきれい・容姿・ゲームに強い ・歌が上手・思い出ができる など		・おなか痛くなる	各1名

#### (2) 題材について

社会の変化に対応して、子どもたちの健康について新たな課題が深刻になってきている。これらの課題の多くは、自分の価値に気づかなかつたり、自信が持てなかつたりするばかりか、存在さえ薄くなるなど、「心の健康問題」と大きくかかわっていると考えられる。

からだの科学性に触れることにより、子どもが自分のからだを知り、自分を肯定的に捉えることができる。その結果、自分のからだは自分で大切にできるようになるだろう。また、周囲の存在にも気づき、友だちを大切にできるようになるのではないかと考えた。この学習が、からだの成長に伴った、精神的な自立のためのきっかけづくりになるだろう。

本校の2年生を対象に実施した調査の結果(上記)では、大部分の児童が「自分が好き」と素直

に肯定的に捉えている。その反面、少数ではあるが「あまりすきではない」或いは「すきかきらいか、よくわからない」と答えた児童もいる。子どもがおとなへと急速に成長する以前の低学年で、本題材を扱うことにより、自分のからだについて関心を持ち、自然に受け入れることができるのではないかと予想した。

**(3) 指導の経過**

事前調査 自分を見つめ直すためのアンケートを実施した。…………… (0.5時間)

第1時 おなかの中の赤ちゃんの成長を知る。

第2時 「赤ちゃんのもと」を知る。

第3時 自分がどのようにして生まれてきたのかに気づく。(本時)

事後調査 これまでの学習を振り返り、自分探しをする。…………… (0.5時間)

**(4) 授業設計の焦点**

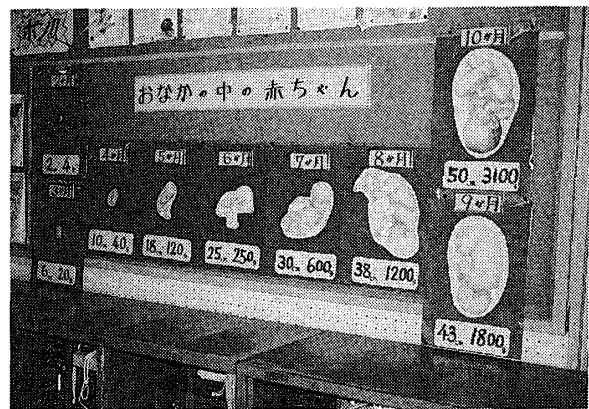
低学年の場合、自分を見つめたり自分自身について考えたりする機会は、あまりもたれることはない。そこで、からだの原点である“命”について触れ、自分はどこでどのようにして大きくなり、生まれてきたのかを、知ったり気づいたりする場を設けることにより、自分を見つめ直し、自分を肯定的に捉えようとするきっかけをつくりたい。そのためには、自分が胎児であった頃の様子をイメージすることで、自分のこととして身近に感じ取ることができるようにしたい。また、自分を見つめ直し、肯定的に捉えようとすることで、これからの生活に一層の意欲をもつことができるようにしたい。

**(5) 本時のねらい**

おなかの中の赤ちゃんの様子を想像しながら、自分も同じようにして生まれてきたことに気づき、これからの生活への意欲づけにすることができる。

**(6) 評価の観点**

個性の伸長	自分のこととして考え、存在を認めることができる。
社会性の育成	生命の始まりは人間であれば誰も同じであると考えることができる。
自主的・実践的態度	意欲をもって生活しようとする。



(7) 学習の展開

学 習 活 動	教 師 の 働 き か け
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さんとお母さんの「もと」が一緒になって「自分のもと」ができた。</li> <li>・「赤ちゃんのもと」は両方が必要である</li> <li>・「自分のもと」は、とても小さかった。</li> </ul> <p>2 「じぶんのもと」が、どのようにして育っていったのかを知る。</p> <p>3 おうちの人たちからの「自分がおなかの中にいた頃」の手紙を読み、発表する。</p> <p>4 「もし、今おなかの中の赤ちゃんになれたら」どんなことを思ったり感じたりするかを想像し、ワークシートに記入し、発表する。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>1 卵子と精子のペープサートを用いて振り返りやすい用を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分のもと」がとても小さかったことを示すために、“ケシの実”を用い、受精の大きさをイメージできるようにする。</li> </ul> <p>2 おなかの中で小さな受精卵が、胎盤とへその緒と羊水によって、大きく育つ様子を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・胎盤・へその緒・羊水・子宮について簡単に説明し、イメージしやすいようにする</li> </ul> <p>3 周囲の人たちの気持ちや願いを知るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に保護者から用意していた手紙を読む。(内容は事前に確認しておく)</li> <li>(※「おへそのひみつ」を読む?)</li> </ul> <p>4 ◎おなかの中の様子を知ったり、周囲の人たちの気持ちや願いを聞いて、「今、自分がおなかの中にいたら……。」どんなことを考えるか、どんなことわ言いたいのか、を想像する場面を設定し、ワークシートに記入する事によって表現できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独り言でも良いし、周囲の人たちやお母さんにでも良い。</li> </ul> <p>5 次時には、今日の学習をもとに“自分探し”をすることを伝える。</p>

5. 考察

(1) 本時の学習の展開から

- ① 「生命の不思議」や「赤ちゃんの不思議」という題材は、児童たちは大変興味をもっており、関心を高めて学習を進めることができた。が、「胎児の頃を思い出してイメージ化」する場面では、躊躇する児童がいた。教師側が、児童の自由な発想を望んでいたために、発問の仕方があまりにも抽象的になってしまったようだ。しかし、回収したワークシートを見ると、一人ひとりしっかりと胎児になりきって感想を記入していた。例えば、「早く生まれてたい」「家族の顔かみたい」「おかあさんが歌う声が聞こえる」「外の世界を早く見たい」「狭いよお」「気持ちいい」等。

② 実物大の胎児やへその緒、ぬるま湯で作った羊水、羊水の中の胎児の様子等、視覚や触覚に訴えるような教材に工夫をしたため、児童の興味・関心を深めることができた。

## (2) 事後調査「自分さがし」の結果から

本題材の学習の約1ヶ月後に「自分さがし」と称して、事後調査を実施した。1ヶ月という期間は、近からず遠からず、日々の生活を過ごす中で、学習で得た事を適宜思い出しながら、振り返ることができる適当な期間と考えたからである。事前に大学の先生から『事後調査をする時期は、この学習を振り返る1つのポイントとなる』と指導助言を頂いていた。

① 事前調査で「自分が好き」と答えていた児童は、事後調査でも全員が「好き」と回答していた。前回では「どんなところが好きか」という問いには回答できていなかった児童も、事後調査の中では、具体的に「言葉がはっきりしているところ。」のように、小さな事でも自分の良いところを見つけようとしている様子が伺えた。

② 「あまり好きではない」「きれい」「よくわからない」と回答していた児童からは「前はこんなところがきれいだったけど、今はなところが好き」とか「自分の好きなところはこんなところ」など、自分の好きなところを見つけたり、きれいなところを少しずつ変化させようとしている様子が伺えた。例えば・できないこともたくさんあるけど、やる気になればできる。・足が遅いのがきれいだったけど、速くなった。(サッカーがうまくなった。) もっとサッカーがうまくなるようにがんばる。・性格が暗いところがきれいだったけど、今は明るくなった。友だちに何をされても、はっきりすすんで言うことができるようにがんばる。・いっぱい悪いことをする自分はきれいだったけど、いろいろな工作を作る時の自分は好きだと思えるようになった。・あんまり人の話を聞かなかつたり、ぼう力をふるっていた自分はきれいだったけど、今は友だちと助け合っている。連続逆上がりをがんばる。・弱くてなさけないところがきれいだったけど、強くなってきた。・好ききれいが多かったけど、少なくなった自分が好き。・寝過ごすことが多かったけど、今はきちんと起きれるようになったところが好き。など、多くの児童は「自分さがし」をする事により、自分を見つめ直すきっかけとなったようだ。その基準は一人ひとり様々ではあるが、どこか肯定的に捉えようとする様子が伺える。

③ しかし、1名の男子児童は、事前調査「よくわからない」、事後調査「好きなところなし。がんばっていることなし。」と回答している。本児童に関しては、以前から担任と共に気にしている存在ではある。この回答は、今回の学習を真剣に受け止めていないのではなく、今の自分を正直に表現した結果と受け止めている。今後、学校生活の関わりの中で、声かけをしたり、そばで話を聞くなど、継続的な支援を必要とする。

## (3) 「自分で決める場」の設定から

精子と卵子の受精により「自分のもと」が始まり、それが“命の始まり”である。そして、着床し育っていくときから、自分の命は始まっている。と考えるきっかけにした。

### 引用・参考文献

- 1) 第38回学校保健ゼミナール講演資料集，東山書房，1999，8
- 2) J.M.タナー著・林 正監訳，成長の「しくみ」をとく胎児期から成人期までの成長のすすみ方 東山書房，1999.
- 3) 代表村瀬幸浩・山本直英編集 シリーズ8 性教育 その用語と教材 あゆみ出版 1997. 8
- 4) 村瀬幸浩，性教育が深まる本，十月舎，1999. 7
- 5) 住田実編著，わくわく保健指導1年間 手作り胎児人形型紙，日本書籍，1994. 1